

## 平成26年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成26年10月15日(火) 午前10時00分～11時50分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 小幡 銀伸 ((公財)豊田市体育協会 会長) 《会 長》  
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長) 《副会長》  
藤原 睦行 (事業所代表 トヨタ自動車(株) 人事部)  
岩月 富士雄 ((一社)豊田市身障協会 理事)  
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)  
平林 栄子 (スポーツ指導員 代表)  
北村 幸子 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)  
柴田 昌隆 (豊田市小中学校長会 代表)  
鈴木 秀次 (豊田市健康づくり協議会 会長)

【欠席者】 (委 員) 湯浅 景元 (中京大学スポーツ科学部 教授)  
近藤 憲彦 (豊田市区長会 理事)

【事務局】 福嶋 兼光(教育長) 塚本 伸宏(教育行政部長)  
宮川 龍也(教育行政部副部長) 伊藤 勝介(スポーツ課長)  
杉山 寿美雄(スポーツ課副課長) 梅村 靖之(スポーツ課担当長)  
畔柳 隆二(スポーツ課担当長) 太田 信人(スポーツ課担当長)  
田中 真美子(スポーツ課主査)

【傍聴人】 0人

- 【次 第】
- 1 教育委員会あいさつ
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議題
    - (1) 第2次豊田市生涯スポーツプランの進捗について(資料1)
    - (2) 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた豊田市の取組みについて(資料2)
  - 4 報告
    - (1) ラグビーワールドカップ2019豊田市招致
    - (2) 今後のイベントについて
      - ・第35回豊田マラソン
      - ・愛知県市町村対抗駅伝競走大会
      - ・豊田国際体操競技大会

## 【会議録（報告、議題部分のみ）】

### ■議題（1）第2次豊田市生涯スポーツプランの進捗について

事務局：資料に基づき説明（資料1）

#### 1 子どものスポーツ活動の推進

委員：小学生の体力測定の結果の説明はあったが、中学生はどうか？

事務局：中学校2年生の結果があるが、男子は全国平均を上回っている。

委員：小学生は低いが、中学生になると上がるというのは、ここ数年の流れである。これは、中学校で部活に入るからだと思う。子どもに素質が無いわけではない。

会長：ほとんどの生徒が部活に入るのか？

委員：基本は全員入る。

委員：小学生は親がすすめないといけない。親の意識が大きい。

委員：スポーツ少年団の会員数が100万人から80万人に減少。これは平成17年度から減っている。指導者が勝利志向に走って上手くない子どもが辞めてしまう。強くすればいいということではないと思う。遊びを運動として捉えてほしい。体を動かすことが好きにならなくなる。テレビゲームや携帯に身をゆだねる子も多い。少子化が原因ではなく、親が運動させていない。家族が理解できていない。

会長：スタジアムのイベントで交通安全環境フェアをやった。名古屋市でやっていたものを豊田市へもってきた。今年の来場者は2万人だった。交通安全を遊びながら、楽しみながらできるので来てくれる。今年はサッカーも絡ませて実施した。親と子、両方を引っ張り出すことが大事。

#### 2 成人のスポーツ活動の推進

委員：運動するきっかけという意味で地域型スポーツクラブはどうなったのか？大々的に立ち上げたが、その結果がこれ？という感じである。

事務局：確かに、どのスポーツクラブも子どもや高齢者の参加が多い教室ばかりである。

委員：私の勤務している会社内でも健康増進担当部署があるが、色々な工夫をしないと参加してくれない。行政が直接言っても難しいと思う。面としてターゲットを考えるなら、ママさん教室をやりながら一方で組み合わせでやれそうな別の事業をやるなどの工夫が必要。私の所属している部署では、今月、万歩計を配ってウォーキングの歩数を競っている。競争を取り入れると意識が高まるのでは。

会長：みよし市にあるトラック研修センターでは、ドライバーの人手不足から60歳を超える人も参加している。年をとっても運転できるよう反射神経の訓練もしている。

委員：スポーツ課はスポーツ。健康部は健康づくり。それぞれがバラバラに取り組んでいる。単発で実施するのではなく、総合的に両部と一緒にやっていく必要があるのでは。連携

して進めないと参加する側が迷ってしまう。

会 長：ラジオ体操とウォーキングは連携して取り組んでいる。来年度もやる。

委 員：障がい者の講座では送迎者にも来てもらっている。市からの補助もある。福祉部局とも話をしているが、キャパが大きくなると補助があってもやれない。

### 3 大規模スポーツイベントの開催

会 長：スカイホール豊田は土日もいっぱいである。月曜日も開館したらどうかと市に言っているが返事をもらっていない。

委 員：ソフトボールは相手が試合会場を指定してくれる。女子は観客が多いので野球場で大会を開催している。ソフトボール場では観客が入りきれない。先日のスポーツデーで参加した父兄に声をかけた。子どもが小さいので騒ぐと申し訳ないという理由で参加しないという人もいた。運動するきっかけになるか、と聞くと子どもがいることを理由にできないと言う。本当はやりたいと思っても、父親は仕事で疲れてやらない。高齢者は元気。スポーツデーがきっかけになったらと思う。

会 長：メディアを使ったPRを。スタジアム内に専用スペースを作ったらどうかという提案をしている。ひまわりケーブルテレビを活用し、番組を見るとこの先のスポーツイベントが画面に出るとか。豊田マラソンは2時間も中継してくれる。

委 員：中心市街地の人たちはどう思っているか？グランパス戦のときに住民は、車に迷惑し、観客も素通りするので商売につながらないという話を聞いた。まちなかのウェルカムムードはまだまだという感じがする。

会 長：以前、豊田市は教育の街と皮肉を言われたことがある。夜に遊ぶところが無いということ。ここ5、6年で食事のできるところが増えたと思う。商業観光課も一生懸命やってくれている。

委 員：名古屋からの乗り継ぎが不便という声がある。鉄道の直結の話は？

委 員：リニアだと東京から名古屋まで40分。複線化の話はある。交通の利便性を上げようという動きは出ている。

### 4 地域スポーツの推進

委 員：日本体育協会でも、スポーツクラブとスポーツ推進委員の関係は非常に難しいとされている。スポーツ少年団との連携は必要である。指導者を取り合うということにならないように。少年団の指導者は若い人が多い。逆にスポーツクラブは高齢化。活動は別々でも研修会などは一緒にやればいいのでは。スポーツ少年団においてアクティブチャイルドプログラムというものがあるが、今年は幼児版も作る。

委 員：自治区の理解が必要だと思う。区の役員にもお願いして理解を深めることが大事。

## ■議題（2）東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた豊田市の取り組みについて

事務局：資料に基づき説明（資料2）

会 長：議題が抽象的である。市が具体的な取り組み方針を示す必要がある。市として何をやっていきたいと思っているのか。オリンピックはスポーツだけでなく、経済の活性化や国際化の要素もある。その中でスポーツの部分はスポーツ推進審議会が担う。もっと大きな枠組みを決めてもらわないと話ができない。オリンピックをどう捉え、どうしていきたいのか。仮に豊田市から50人をオリンピック選手として輩出したいと考えるなら、トヨタ自動車と中京大学があれば可能である。

委 員：旭にあるカヌーのコースは日本で一番良いコースだと聞いた。

会 長：ダムで水量が調整できる。

委 員：オリンピックはボランティアの質と量が成功の鍵と聞いている。

委 員：オリンピックは子どもに夢を与えたり、感動を感じてもらえる良い機会である。

委 員：中学校でパラリンピックの選手による講演会を開催した。子どもたちは大変刺激を受け、夢を持つことにつながっている。将来オリンピックで通訳をやりたいという生徒もいた。

委 員：国際化も含め、全体の方針を示してほしい。

委 員：私の会社でも検討を始めているがまだまだこれからである。今後県や市との連携も必要になるだろうと思っている。

委 員：国体のとき、体育指導委員は全員ボランティアとして参加した。みんな、国体に携われたことに感動した。

■報告（1）ラグビーワールドカップ2019豊田市招致  
（2）今後のイベントについて

事務局：資料に基づき説明

質 問・意見なし

以上